

令和 元 年度 城山中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

(1) 基本目標

人間尊重の教育を基盤とし，心身ともに健康で，自主的・自律的に行動し，豊かな創造力と正しい判断力を身に付け，社会の変化に主体的に対応し，国際人として世界に貢献できる日本人の育成を目指す。

(2) 具体目標

- 1 心身ともに健康で勤労を尊ぶ生徒
- 2 基盤となる学力を身に付け，自ら学ぶ意欲を持つ生徒
- 3 礼儀正しく，責任を重んじ，心情豊かな生徒
- 4 主体的で創造性に富み，個性豊かな生徒
- 5 文化や伝統を尊重し，国際社会に貢献できる生徒

(3) 生徒の信条

「強く，賢く，美しく」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

地域と密着した教育活動を展開しながら，互いに学び合い高め合う集団を形成し，すべての生徒が自己有用感を味わえる学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 学習指導要領に則り，学力の定着と向上を図るとともに，基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成，健康的な生活習慣の形成による，豊かな心と健やかな身体を育む教育を推進する。〈生徒〉
- (2) 互いに高め合い，学び合う協働的な同僚性の育成と，研修への積極的参加による指導力と専門性の向上，並びに組織的対応による職員の負担軽減と業務の効率化を図る。〈教職員〉
- (3) ○小中間の連携強化を図り，義務教育の連続性を重視し，地域人材・地域教材を有効に活用し，地域貢献活動・地域交流活動等の教育活動を推進する。〈小中一貫教育・地域学校園〉

【城山地域学校園教育ビジョン】 ともに学び合う城山っ子を育む地域学校園

4 教育課程編成の方針

関係法令，県学校教育振興ビジョン，市学校教育スタンダードや指導の重点等に基づき，生徒が社会の変化に向き合い適切に対応していくため，学校教育を通して育むべき資質・能力を明確にし，それらを生徒が確実に身に付けることができるよう教科等の関連を図り，バランスの取れた教育課程の編成に努めるとともに，地域の教育資源や外部指導者の活用及び魅力ある学校づくり地域協議会や保護者との連携を図った，地域に根ざした豊かな体験活動を教育課程に位置づける。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- 【学 校 運 営】○一人一人のよさを認め，励まし，称賛して更に伸ばす指導の充実と，地域の教育力を生かし，地域とともに歩む学校づくり，並びに業務の効率化
- 【学 習 指 導】 学習目標の明確化と定着のための振り返りの充実，指導法や授業形態の工夫による学力の向上，主権者教育の推進
- 【児 童 生 徒 指 導】 規範意識の醸成，耐性を育む指導の充実と，認め合い助け合う集団づくりによるいじめ等問題行動の未然防止
- 【健康（体力・保健・食・安全）】 健康と食の安全確保のための衛生管理，施設点検の充実と，体力向上を目指す工夫を凝らした教育活動の展開

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所を下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す生徒の姿	A1 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	① 学力調査等の結果を分析し、生徒の学習における課題を明確にした上で、ワークシート等を工夫するなど個々の能力を伸ばしていくための方策を考え、全教職員で共通理解を図る。 ② ふれあい文化教室や大谷石加工体験学習などの外部講師による授業や、自分の考えを書いたり話し合ったりする活動を効果的に取り入れた授業などにより、生徒の思考力、判断力、表現力等を高める。	B	【達成状況】生徒の肯定的回答は94.7%と数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 ・肯定的回答の割合が高い背景には、生徒が表面的な取組で学習したと思っていることがあげられる。基礎学力の定着が図れていない生徒や基礎学力はあるが深い学習につなげようとする生徒が多い等、課題も多い。難易度の高い課題に取り組もうとする意欲を引き出す授業の工夫や基礎学力の定着を図る手立てを講じていく。
	A2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上	① 冒険活動教室や職場体験学習等の、人・自然・社会との関わりを通じた体験活動の充実を図り、豊かな心を育成する。 ② 学級活動や生徒会活動、学校行事等における取組を積極的に認め励ますことで、自信や自己有用感を育む。	B	【達成状況】今年度から新しく設定された項目で、生徒の肯定的回答は88.0%で数値指標を下回っている。 【次年度の方針】 ・道徳、学級活動の時間を中心に、お互いの良いところを見つけ、認め合う活動を意図的に取り入れる。「ありがとう」という感謝の言葉が自然にできるような指導をしていく。
	A3 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	① 定期的に、服装・身だしなみチェックを行い、生徒自身で自分の生活を振り返らせるとともに、学年集会等で全体に対しても指導する機会を設け、自己管理能力の育成を図る。 ② 迅速な共通理解の体制づくりと全校生徒を全職員で指導する体制を確立する。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答は86.9%で数値指標を上回っているが、昨年度よりも1.0ポイント下がってしまった。 【次年度の方針】 ・定期的な、服装・身だしなみチェックを行う際に、マナーにならないよう生徒への意識付けをしっかり行う。 ・日ごろから全教職員による目配りを行い、きまりやマナーを守れなかった場合は、すぐに指導をする。そのために、職員間で共通理解を図り、全生徒を全職員で指導する体制を確立していく。
	A4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 95%以上 地域住民の肯定的回答 90%以上	① 地域学校園内の小学校や地域協議会と連携をした「あいさつ運動」を実施する。 ② 生徒会の活動として、執行部だけでなく全ての学級が順番であいさつ運動を実施するとともに、校外活動でもしっかりしたあいさつができるよう、一人一人の意識の高揚を図る。	B	【達成状況】生徒の肯定的回答は94.3%であり、数値指標を下回った。地域住民の肯定的回答は100%であった。 【次年度の方針】 ・地域学校園内の小学校や地域協議会と連携した「あいさつ運動」を、10月に実施することは定着してきたので、活動内容を工夫・充実させてさらに活性化させていく。 ・あいさつ運動を生徒会活動に位置付けて計画的に行い、定着させるとともに、良い事例を称賛し、学校内での教育活動だけでなく、校外活動でもしっかりしたあいさつができるよう一人一人の意識の高揚を図る。

<p>A5 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 体育祭や冒険活動教室、部活動などにおける困難を乗り越える体験を通して、目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組む態度を育む。</p>	<p>【達成状況】生徒の肯定的回答は87.3%で数値指標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ・多くの生徒が粘り強く取り組んでいると感じているため、引き続き「褒めて伸ばす」「一人一人を生かす」指導を継続するとともに、苦手意識や不安感等がある生徒には個に応じた目標を設定させたり、自分のできる役割を考えさせたりすることで、達成感や自己有用感を味わわせる。</p>
<p>A6 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 保健体育の授業で、補強運動を工夫して取り入れ体力の向上を図る。</p> <p>② 運動に対する意識の向上と運動習慣の定着のため、元気っ子チャレンジへの参加を継続する</p> <p>③ 交通安全教室、避難訓練等を通して、適切な意思決定や行動選択ができるようにする。</p>	<p>【達成状況】生徒の肯定的回答は91.5%で数値指標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ・高い肯定的回答であるため、次年度も取組を継続する。また、それぞれの取組を何のために行うかという目的を、しっかりと伝えることで、「健康」「安全」への意識を高めていく。</p>
<p>A7 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。</p> <p>【数値指標】 A5と同じ</p>	<p>① 宮っ子チャレンジウィークや高校1日体験学習を通して、自分の将来の夢や進路等について考えさせ、社会的・職業的に自立に向け、必要な能力や態度を育てる。</p>	<p>【達成状況】生徒の肯定的回答は87.3%で数値指標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ・スキル学習（電話のかけ方・話し方・調査したことまとめ方・PCの使い方・もてなし方など）をより充実し、自信を持って校外の活動に出られるように指導していく。</p>
<p>A8 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 英語の授業でALTを効果的に活用するとともに、給食の時間にALTが教室で食べることなどにより、コミュニケーションを図る機会を増やし、英語力を向上させる。</p>	<p>【達成状況】生徒の肯定的回答は88.3%と数値指標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ・生徒たちは休み時間や給食の時間などALTに気さくに話しかけてコミュニケーションをとっていたので、そのような場面を見かけた教員が認め励ますなどして継続していきたい。</p>
<p>A9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① ふるさと学習で学年ごとのテーマを設定し、環境や地域文化財、産業、福祉等について学習を行い、郷土の良さを知るとともに、愛情と誇りをもたせるようにする。</p>	<p>【達成状況】生徒の肯定的回答は81.3%であり数値指標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ・ふるさと学習の学年テーマに沿った学習が行えるよう、協力していただける団体や人材の発掘に努める。 ・生徒が郷土に対して愛情や誇りをもてるよう、宇都宮や地域の行事や活動を積極的に紹介する。 ・保護者の肯定的回答の数値が62.7%と低いので、生徒の活動について各種便りや保護者会等での情報発信に努める。</p>
<p>A10 生徒は、ICT機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 総合的な学習の時間等において、図書資料やインターネットを利用した調べ学習やまとめ活動を取り入れ、情報活用能力の育成を図る。</p>	<p>【達成状況】生徒の肯定的回答は76.0%で数値指標を下回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ・今年度、新しいタブレット型パソコンの導入もあったため、教室でのグループの話し合い活動などにも活用していく。 ・図書室の利用を教科等の年間指導計画に位置づけ、計画的に図書等を学習に活用する機会を設ける。</p>

	<p>A11 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 A2と同じ</p>	<p>① 城山あったか活動における、高齢者福祉施設での交流・奉仕活動や外部講師による認知症サポーター養成講座を実施することなどを通して、高齢者への理解を深め感謝やいたわり敬う心を育む。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】生徒の肯定的回答は88.0%で数値指標を下回っている。 【次年度の方針】 ・高齢者が不便を感じていること、高齢者福祉施設の課題、高齢化社会の課題を事前に調べ、自分に何ができるのかを考えさせたい。うえて活動に参加をさせたい。</p>
	<p>A12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 75%以上</p>	<p>① 教科や特別活動等の中で、環境、人権、平和などの価値について学び、様々な課題を自らのこととして捉え、持続可能な社会づくりに参画しようとする態度を育む。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】生徒の肯定的回答は72.5%と数値指標を下回っている 【次年度の方針】 ・生徒は知識として「持続可能な社会」という言葉は知っているが、具体的に何をしたらよいのかということまでには至っていない。教科や領域において「持続可能な社会」に関係する単元においては積極的に触れることで、「持続可能な社会」とはどういうことかを理解させるとともに、専門委員会などの活動を通して何をすることができるとかを具体的に考えさせていきたい。</p>
	<p>B1 生徒は、健康の維持増進に気を配っている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 保健体育委員が中心となって、手洗い・うがいチェックの方法を工夫して実施する。</p> <p>② 保健便りに、時期に応じた健康課題や生徒の活動の様子を掲載するなど、内容の工夫・充実に努める。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】生徒の肯定的回答は94.6%であり数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 ・非常に高い肯定的回答であるため、本年度の取組を継続する。1年生においては、手洗いチェックを前期オリエンテーション時期に実施する。(ハンカチ・タオルの持参)</p>
	<p>B2 生徒は、朝の読書等により、読書の楽しさを味わっている。</p> <p>【生徒の肯定的回答】 85%以上</p>	<p>① 朝の読書の時間を確保し、継続して実施する。落ち着いた雰囲気ですっきりと取り組ませ、読書の習慣づけをする。</p> <p>② 外部講師による読み聞かせを引き続き年間予定に組み込む。</p> <p>③ 図書委員による本の紹介活動も継続、充実させる。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】生徒の肯定的回答は78.9%と下回っている。 【次年度の方針】 ・日課変更や各種アンケート等の実施による朝の読書に時間のカットを極力減らし、読書の時間の確保に努める。 ・読書の楽しさを共有する機会を計画的に設定する。</p>
目 指 す 学 校 の 姿	<p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 生徒指導教育相談部会や学年会議等において、特別な支援が必要な生徒の実態把握・情報共有に努め、特別支援教育コーディネーターを中心に関係職員と連携を図り、適切な支援を行う。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】教職員の肯定的回答は96.3%と数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 ・本年度同様、生徒指導教育相談部会や学年会議等において、特別な支援が必要な生徒の実態把握・情報共有に努め、特別支援教育コーディネーターを中心に関係職員と連携を図り、適切な支援を行う。</p>
	<p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 95%以上</p>	<p>① あらゆる場面でいじめが許されない行為であることを指導するとともに、いじめゼロ強調月間を利用していじめ問題を扱った道徳の授業を実施する。</p> <p>② いじめについてのアンケートを実施するとともに、全職員で生徒の行動を見守り、情報の共有化を図りながら、適切な指導や支援を行う。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】生徒の肯定的回答は96.3%と数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 ・あらゆる場面でいじめが許されない行為であることを引き続き指導する。全職員で生徒の行動の見守りとともに、いじめについてのアンケート等の情報の共有化を図りながら、適切な指導や支援を行う。</p>

<p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 授業や行事、普段の学校生活の中で、一人一人が活躍できる場面や役割を用意し、その取組の成果を認め、励ます指導を行う。</p>	<p>【達成状況】 生徒の肯定的回答は93.3%と数値指標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ・本校の重点目標である「褒めて伸ばす指導の充実」を継続する。授業や行事、普段の学校生活の中で、一人一人が活躍できる場面や役割を用意し、自己有用感・自尊感情を育む。</p>
<p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 A13と同じ</p>	<p>① 日本語での会話や読み書きが十分ではない外国人生徒が在籍したときは、日本語指導及び学校生活適応について支援する。</p>	<p>【達成状況】 本年度、該当する生徒の在籍はなかった。</p> <p>【次年度の方針】 ・日本語での会話や読み書きが十分ではない外国人生徒が在籍したときは、日本語指導及び学校生活適応について支援する。</p>
<p>A17 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 全教育活動を通して、人権や生命尊重を大切にされた指導を継続し、生徒一人一人が生き生きと活動できるようにする。</p>	<p>【達成状況】 生徒の肯定的回答は87.3%と数値指標を下回っている。また、前年度より2.9ポイント下がった。</p> <p>【次年度の方針】 ・生徒一人一人が生き生きと活動し、学校生活に満足感を得られるよう、「褒めて伸ばす指導」を推進する。また、学校行事や生徒会活動を通し、生徒が主体的に活動できる場を意図的に設定する。</p>
<p>A18 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 「ねらい・目標の明確な提示」「振り返り活動の充実」「自分の考えを書いてまとめる等、思考力・判断力・表現力の育成」に重点を置いた授業改善に積極的に取り組む。</p> <p>② 単元末テストや小テストを計画的に実施するとともに、生徒がワークブック等に意欲的に取り組める方策を検討し、基礎・基本の定着と学力の向上をめざす。</p>	<p>【達成状況】生徒の肯定的回答は91.1%と数値指標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ・生徒の肯定的回答は高く、教師の努力を生徒は理解している。しかしながら「学力を付けることの必要性」に対する生徒の意識の差が大きいことなどから、学力調査等における成果につながっていない。目的意識を育てるとともに、基礎基本の定着を図りたい。</p>
<p>A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 学校の組織力を強化するため、校務分掌や委員会所属等に配慮し、教育活動の充実を図る。</p> <p>② 担当教員を中心として、コミュニケーションを図るとともに、計画的に情報交換の機会を設ける。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は96.3%であり、数値指標を上回っている。お互いに支援し合い、コミュニケーションを密にしようという意識が高い。</p> <p>【次年度の方針】 ・職員の経験、適性、専門性、希望等を考慮しながら校務分掌、委員会所属を検討する。 ・朝の打合せ、日報、資料の回覧、職員会議等での情報交換・共有に努める。</p>
<p>A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p>	<p>① ミラタイムによる出退勤時刻の入力を徹底する。</p> <p>② 市部活動方針に基づき、休養日等を適切に設定し、運用を徹底する。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は77.8%であり、数値指標を2.2ポイント下回っている。業務の効率化、教職員の意識改革は進んでいるが、全体の業務量が多いため実感が得られ</p>

<p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>③ 各種団体からの研修会参加依頼やコンクール等への出品依頼等を精選する。</p>	<p>ないためと思われる。 【次年度の方針】 ・ミライムへの出退勤時刻入力を徹底し、勤務時間を意識した働き方を目指す。 ・市の部活動方針の運用を徹底する。 ・教育課程の編成は、業務の効率化、精選の視点も考慮する。</p>
<p>A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 小中一貫教育主任、部長、分科会長を中心として、小中の教職員間のよりよい連携・協力体制を築く。 ② 小中が連携した取組等を各種便り等で情報発信する。</p>	<p>A 【達成状況】 生徒の肯定的回答は82.7%で数値指標を7.3ポイント下回っている。小中の教職員の連携や、小中が連携した取組についての生徒への情報提供が足りないためと思われる。 【次年度の方針】 ・小中が連携した取り組みに加え、小中の教職員の連携についても各種便りや保護者会等で情報発信に努める。 ・上記の内容について朝の会、帰りの会等で生徒にも情報提供をする。</p>
<p>A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 地域の特色である大谷石文化や大谷石、先人の生活等について学ぶ、大谷石加工体験学習を実施する。</p>	<p>B 【達成状況】 保護者の肯定的回答は89.2%で数値指標を4.2ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・担当学年、地域連携教員を中心に内容、方法、時期などについて改善を図っていく。今年度実施法を変えた「ふるさと学習」を継続する。</p>
<p>A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 A22と同じ</p>	<p>① 外部講師を招いての喫煙・飲酒・薬物乱用等の防止教室や、保健・安全・福祉等の講座を検討・実施する。 ② 地域連携教員と地域コーディネーターを中心に、魅力ある学校づくり地域協議会と連携し、外部人材の協力を得た活動の検討と人材の発掘に努める。</p>	<p>B 【達成状況】 保護者の肯定的回答は89.2%で数値指標を4.2ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・学年の実態や意向を踏まえ、外部講師を招いての喫煙・飲酒・薬物乱用の防止教室や歯科講話・性教育講座・デートDV、SNS等の被害防止講座、認知症サポーター養成講座等を検討・実施する。 ・教職員の要望をとらえ、地域連携教員、地域コーディネーター、魅力協と連携・協力しながら活動内容を検討し人材の発掘に努める。 ・魅力協の活動の周知を図る。</p>
<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 毎月の安全点検を確実に実施し、対処が必要な部分は適切に処理する。</p>	<p>B 【達成状況】教職員の肯定的回答は96.3%であり数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 ・毎月の安全点検だけでなく、担当教員をはじめ、気が付いた教職員が適宜対応できているため、次年度も同様に継続していく。</p>

	A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 A10と同じ	① タブレット型パソコンの導入後、速やかに研修を行い、学習の充実が図られるようにする。	A	【達成状況】生徒の肯定的回答は76.0%で数値指標を下回っている。 【次年度の方針】 ・教職員の研修も定期的に行い、生徒の活動に還元していきたい。
本校の特色・課題等	B3 地域を愛する心や地域に貢献しようとする態度が身につけている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上	①城山あったか活動やふるさと学習等の体験を通して、地域社会の一員として自分にできることを考えようとする態度を育てる。	A	【達成状況】 生徒の肯定的回答は1年生が96%、2年生が81.6%、3年生が86.3%で、全生徒の値87.9%は数値指標を2.1ポイント下回っている。 【次年度の方針】 ・学年の実態を踏まえ城山あったか活動やふるさと活動の内容・方法・時期等について再検討する。 ・地域の行事やボランティア活動等について生徒に情報提供し、積極的な参加を促していく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・目標とした数値指標を上回った項目は16項目で、下回った項目は11項目である。下回った項目の中で、最も差が大きいものは-7.3であるが、差の平均は-3.2ポイントであり、概ね良好である。
- ・市全体の平均と比較すると、+5ポイント以上の項目が教職員7、保護者2、地域住民2、児童生徒3であり、-5ポイント以上の項目は教職員6、地域住民1であった。保護者及び児童生徒はない。
- ・肯定的回答の割合を昨年度と比較した場合、教職員・保護者・生徒の3者全てで下がった項目が4項目ある。「決まりやマナーを守っている」「活気がありいきいきしている」等の項目とともに、本校が重点的に取り組んでいる「あいさつ」の項目が下がっており、基本的な生活の部分における生徒の意識の低下が懸念される。また、「進んで学習に取り組んでいる」の項目における生徒と教師の肯定的回答の割合の差が大きいのは、生徒の対しての期待の大きさが表れているものと考えられる。
- ・地域住民の回答を見ると、「ふるさと学習」や「あったか活動」等の地域との関わりを重視した本校の特色ある教育活動に対する認知度は非常に高い。一方で「小中一貫・地域学校園」の取組について十分に理解されているとは言えない。

7 学校関係者評価

- ・大部分の項目で、生徒の肯定的回答が市内中学校の値を上回っているのは、本校生徒が前向きに生活しているためだと思う。また、学校内で友人や教師に認められていると感じている様子が感じられる。
- ・生徒の肯定的回答が高いのに教職員の値が低いという差が生じているのは、教職員の課題意識や危機意識が高いためだと思う。良いことだと受け止めたい。
- ・「持続可能な社会」を作っていくための学びを、地域の人も一緒にできるといいと思う。
- ・生徒や教職員の挨拶に対する評価が昨年度より下がっているが、通学時に挨拶をしてくれる生徒が昨年度より増えた気がする。
- ・「進んで学習に取り組んでいる」の生徒の回答は、市の平均より低いが、生徒・教職員・保護者全てで昨年度より向上している、これはすばらしいことであると思う。
- ・「市中一貫・地域学校園」の取組に対する地域住民の値が低いのは、取組の様子が地域住民には分かりにくいことが理由であると思う。地域協議会の会議の場で、活動の様子をパワーポイント等で説明するとよいのではないかと。
- ・働き方改革への取組が進んでいるようでよかった。生徒のためにも健康に留意をして仕事をしてほしい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・アンケートの結果や学校関係者評価から、令和元年度の学校経営については概ね良好であり、目指す生徒像に迫る教育を推進できたと考える。
- ・大部分の項目で生徒の肯定的回答が高い背景には、学校運営上の重点目標である「一人一人のよさを認め励まし、称賛して更に伸ばす指導」・「自己有用感を味わえる教育活動の推進」があると考えられる。
- ・学習に対する取組についての肯定的回答が低い点は昨年度の課題の一つであったが、教職員・保護者・生徒の全てで改善されている。「主体的・対話的な学びの実現」「学習目標の明確化と定着のための振り返り、授業形態の工夫」等の取組をし

てきた成果であると思われる。次年度も継続した取組を推進していく。

・「決まりやマナー」「あいさつ」の項目の肯定的回答が下がっており、基本的な部分での生徒の意識が低下していることが懸念される。形式的、表面的な取組でなく、その目的や意味を考えさせる指導をしていきたい。

○「小中一貫教育・地域学校園」に関する地域住民の肯定的回答の割合が低い。中学校から小学校への乗り入れ授業・小中合同あいさつ運動・冒険活動における小中合同の取組等、実践している内容はあるが地域住民がそれらの取組を知る機会がほとんどないことが原因であると思われる。地域学校園内の小中学校それぞれが、学校だより等によって地域住民への発信する、各学校の地域協議会の会合の中でパワーポイント等により取組の様子を紹介する等の手立てを考えていきたい。